

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 9 月 10 日

【評価実施概要】

事業所番号	2190800017		
法人名	株式会社 岐北測量コンサルタント		
事業所名	グループホーム ききょう		
所在地	岐阜県山県市東深瀬505番地の2 (電話) 0581-22-5617		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年9月6日	評価確定日	平成20年10月9日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周辺に田園が広がる農村地帯の一角に、新築平屋のホームがある。開設して2年、「地域とのつながりを」という理念の実現を目指し、親の介護経験がある代表者夫婦が日々情熱を持ってケアに邁進している。職員もその熱意に同調した地元出身者が多く、話題や習慣等も一致しており、スムーズな入居に繋がっている。また、開設以来のケアマネジャーは、看護師として大型施設の勤務経験もあり、職員と協働しながら利用者の状況や体調を把握し家族の安心感を得ている。代表者夫婦と全職員の心あるケアにより安眠剤の服用中止やこまめな排泄チェックで入居当時より排泄の自立度があがった人も多い。また、介護度が軽くなり自宅へ帰った元利用者が、自ら運転してホームへ遊びに来た例もある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） 前回は初回の評価であったことから、この1年の努力の跡が感じられた。改善課題であった外出支援については、外出できない場合でも洗濯物干しや外気浴などで雰囲気を変える取り組みを進めてきた。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 全職員に自己評価票を配布し、目を通してもらった上で意見を取り入れ、ケアに活かす取り組みを行い、最終的に代表者がまとめ上げたものである。自己評価への全職員の参画により、課題の発掘にも繋がった。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 過去に7回実施された運営推進会議は、ホームの活動や行事案内を通し、地域との話し合いの場としても活用している。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 家族の意見等は訪問時や電話連絡時に聴き取るよう努力している。家族の要望や苦情を受け止める思いは強くあるものの、その思いが家族に伝わっていない部分も見受けられる。
重点項目	④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 自治会には加入していないが、代表者は自治会長も勤めた経験があり、近隣のボランティアや町内の子供みこしが来たりと、徐々に地域との交流を進めている。代表者夫婦が地元出身という利点を活かし、今後は、ホームの行事に招いたり防災面の協力を求めるなど、双方向の付き合いを目指そうと地域交流の足がかりを図っている。

【情報提供票より】 (平成 20 年 8 月 19 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 10 月 1 日
ユニット数	1 利用定員数計 9 人
職員数	11 人 常勤 4 人非常勤 7 人常勤換算 6.8 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り
	1 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	25,000~ 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合償却の有無	有(退去時返還)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 8 月 19 日 現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	3 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	77 歳	最高	96

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宇野クリニック、尾野歯科医院、岐北厚生病院
---------	-----------------------

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	5つの理念の中に「地域社会とのつながりをしっかり持つ」という理念も入っており、開設から2年足らずのホームではあるが、地域に溶け込んだホームを目指して行こうとする意欲が感じられる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を随所に掲げ、申し送り時や職員会議を通して再確認をする中で、理念を日々のケアに反映させる気づきや工夫に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、町内や近所との交流は自然に行われている。ダンスなどのボランティアが訪れる際は、町内の住民にも呼びかけ招待した。	○	代表者夫婦と共に職員もは地元出身者が多いという利点を活かし、住民との交流に向け、運営推進会議の場も利用して、積極的な働きかけに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、ホームで行われる日常のケアの振り返りであることを代表者・管理者は認識しており、職員に自己評価票を配布して意見を求めて作成し、その作業は職員自身の課題発見にも繋がった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は概ね3ヶ月に1度開催され、行政・自治会・民生委員・家族代表の参加があり、会議内ではホーム紹介や行事計画報告などを行っている。	○	メンバーの固定化は会議が形骸化にもつながらることから、地域のボランティアや住民にも新たなメンバーに加わってもらうなど、多方面の人々からも意見の収集を行い、取り組むべき今後の課題についての活発な意見交換を期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員の訪問やケアマネジャー会議への参加を通し、行政との連携を取っている。	○	地域行事への参加、保育園・小学校・中学校との交流、ボランティアの活用など様々な切り口で、地域交流の橋渡しの協力を行政に持ちかけ、課題点なども市と話し合い、行政と協働してサービス向上に取り組まれることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に詳しく報告し内容も記録されている。家族と会議を持ち、ケアの概要を報告し要望がサービスに反映されるよう取り計らっている。また、金銭出納は、請求時に毎月報告を行い、家族の承諾を得ている。	○	利用者の日々の暮らしぶりや生活面・健康面の様子などは、口頭だけでなく、書面によって知らせることができるようホーム便り・個別便りの作成など、的確・適切な情報伝達の方法を考慮されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や電話などで意見や要望の聴き取りに努めている。また、家族には順番に運営推進会議の出席を依頼しており、外部との関わりの機会を作っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職・退職は少なく、安定した雇用が継続されている。今後、慣れ親しんだ職員が入れ替わる場合は、利用者の詳細な情報を引継ぎ者に伝え、利用者へ影響が出ないように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者・管理者は、職員育成の為の研修の必要性は認識しているが、勤務の都合などがあり、外部研修の情報もあまり入手しておらず研修の頻度は少ない。必要な研修には勤務扱い・ホーム側の費用負担で行っている。	○	年間計画内で外部研修を組み込み、職員の経験や力量・希望に応じて参加することで、職員の質・技能の向上に繋がるため、今後、検討されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のホームは軒数が少なく、ネットワークの構築に至っていないが、代表者・管理者の個人的な関わりにより、情報の取得に努めている。	○	主要職員に限らず、種々の職員が互いに訪問し合い、意見交換や研修を実施できることは職員の育成にプラスになり、さらにこの交流を前進発展させて、他ホームと手を取り合い、地域内のグループホーム全体の質の向上に繋がれることを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者や家族には事前の面談や聞き取りを通し、ホーム見学で利用者の日常生活を見てもらった上でサービスの提供を行うようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者同士がさりげなく注意し合ったり支えたり、職員に教えたりと、相互に支えあって利用者一人ひとりの生活スタイルを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との対話から得られる情報を中心にフェイスシートに記入し、家族からの聞き取りを加え、本人にとって何を優先すべきかを考え、図書館に連れて行ったり、リクエストに応じて歌ったり等その場面に応じた支援ができるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の職員会議でケア会議を行い、その折々に利用者や家族の要望等を確認し、家族には、充分検討した介護計画を提示して了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは3ヶ月毎に行われている。また、急変時は即座に会議を招集し、家族を交えて随時作成した介護計画の変更をしている。見直し時には評価を行い、次回へ反映することでケアの継続につなげている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の希望で通院に同行したり、入院時の付き添いなどを支援している。また、利用者の個人的な買い物の代行等も柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	制度上、医療加算は取っていないが、全員がホームの協力医をかかりつけ医としており、健康管理のため、月2回の往診を受けている。歯科・整形外科への通院や家族の希望によっては、管理者が通院に同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化は、ホームとして避けて通れないことと認識しているが、基本的に看取りは行わず、医療が必要になった時点で家族・医師を交え話し合いを行い、医療機関へつなげる対応をしている。	○	看取りはしない方針であるが、そこに至るまでも様々なケースと場面が予想される。職員間とも話し合いを重ね、ホームとしての基準を打ち出し、手順や判断基準等をマニュアルとして文書化すること、また、覚書のみでなく、家族への説明書面の作成などをされるのが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人生歴を重んじ、生きてきた尊厳を守る意識が、代表者・管理者以下職員にも浸透している。利用者の記録などの個人情報にも注意を払っている。トイレ誘導の際の声かけも本人のみに知らせる配慮を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時間は利用者の自由に任せており、夜勤の職員と談話しながらリビングでゆっくりと過ごす人もいる。長い廊下には、ひとりで過ごせるようなスペースが確保され、ソファでのんびりと1人の時間を楽しめるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人その人の力量を把握し、野菜等の下準備、配膳や片付けなどをやってもらっている。また、らっきょう漬けや干し柿作りなど、昔とった杵柄を発揮する利用者もいる。職員も利用者と同じテーブルに着き、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回行われる日中の入浴支援は、利用者それぞれの好みにより、長風呂、熱め、ぬるめなどに柔軟に応じており、入浴が日々の楽しみになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしの中で利用者の趣味や楽しみを見出す努力がされ、全職員による共有と周知・把握により、廊下のモップがけ・洗濯物たたみ・はり絵など、得意なことをやってもらい、それぞれの力を発揮できる場面作りをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に応じ、散歩や喫茶店への外出を楽しむ支援がされている。外出のできない利用者には、玄関から外へ出て、洗濯物を干したり、空を見上げて外気を吸うなど、普段の日常の中でも四季のうつろいを感じられるようにと、外出に代わる支援も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は全職員が認識しており、玄関と居室は一切鍵をかけていない。出て行きそうな人の雰囲気や早めに察知し、無理に連れ戻すことはせず、用事を頼んだりしてさりげなく無断外出を防いでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は、まだ行っておらず、運営推進会議で自治会・地域への協力を求め、災害時・緊急時に近隣住民の援護が得られるよう働きかけている。	○	消防署や住民協力による日中・夜間想定の実施し、地域との防災協定の締結等もしもの際に備えられたい。また、地域の避難場所の確認・食料飲料水の備蓄品などの定期的な確認も合わせて行われるのが望ましい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況・水分の補給を常時チェックしながら、塩分や糖分にも注意し、毎食後の残量も細かく記載されている。不足気味の人には、間食で不足分を補うなど配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い廊下には高さを考慮した手すりを取り付けられ、ミニリビングも設けられて利用者がソファに腰掛け、1人になってほっとできる場所も作られている。リビングでゆったりと過ごす人、居室で読書にいそしむ人、洗濯物干しに精を出す人など、それぞれが気に入った場所を確保し、ゆったりと暮らしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳を敷いた和室・ベッドのある洋室から好みによって選択できる配慮をしている。ベッドは持ち込みであるが、タンスはホームから提供している。家族が持ち込んだ品がそっとタンスに置かれたり、それぞれ個性のある居室となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。